2026(令和 8) 年度　愛知大学大学院入学試験

（2026. 2 月実施）

受験番号	

修士課程

文学研究科　地域社会ｼｽﾃﾑ専攻	
外国語	
科目名	英　語

採点欄	

（辞書の使用可、電子辞書使用不可）

次の英文を読み、下線部を日本語に訳しなさい。

Are the social sciences proper sciences? Yes – at least they might be if conducted in a certain way. It is often thought that certain methods define the sciences, but this is not so. There is no unique method – only a plurality of scientific *methods*. There are, however, the formative aspirations of science listed in the previous chapter, and when social scientists adhere to them they constitute a science. That said, the methods of the natural and social sciences are importantly different. It is not the case that mathematical analysis is the essence of science; it is not even the case that mathematics is the essence of physics. It is not even the case that scientific methods must be 'objective'. All that is required is that observations be potentially repeatable, falsifiable, and so forth. Thus, a perfectly respectable method of analysis in sociology is 'participant comprehension'. The aim is comprehension of the tacit ways of going on of groups of humans – their forms of life. This is a 'subjective' method, unavailable to any natural scientist because one cannot comprehend atoms or cells in the same way. But, of course, even in physics, all observations are subjective in the first instance – someone has to use their brain and body to read the meter. It is just that, in a physics experiment, the data that are to be read are first inscribed on metal and plastic; in the case of a social science, the data to be read are inscribed on the collective brains and bodies of social beings, and that requires a special kind of 'meter-reading'. The results of this doubly subjective method are, nevertheless, generalizations about society and, as long as the results are described in a sufficiently general and clear form, they can be tested by others using the same method; if others do not find the same results, then something has gone wrong. It is, then, science that is going on, even though the initial observations turn on the subjective. To repeat, the natural and the social sciences are divided quite radically by methods but, in principle, they are not divided by their values or by their credentials as sciences. We do not say this is a description of all the social sciences since many who call themselves social scientists, particularly sociologists, conduct their research and scholarship as though it belongs to the humanities rather than the sciences, and there the values can be different; we say it is a claim about principle covering those social scientists who wish to *proclaim* themselves to be scientists in a self-conscious way. The social scientists who do their work more in the tradition of the humanities than the sciences are simply choosing to work in a different way. So science, as it has been described here, reaches into the social sciences, and so does elective modernism.

出典：Colins, Harry and Robert Evans, 2017, *Why Democracies Need Science*, Polity Press, 66-7.
ただし、注（Notes）は省略してある。

入学年度および実施時期	2026年度　第2期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	地域社会システム専攻
入試方式	一般入試
科目名	英語
試験実施日	2026年2月13日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）

【出題意図】

専門的な文献を英語で読む能力を確認するために、H. Collins & R. Evansによる*Why Democracies Need Science*（2017, Polity Press）より、社会科学の方法論について論じた箇所から出題した。英文を正確に読解できるかを評価するために下線部の和訳を求めた。

【解答例（採点時の観点）】

*Why Democracies Need Science*には、既に鈴木俊洋氏による翻訳書が存在するため、そこから該当箇所を抜粋して解答例として示す（ただし、訳文の一部を改めてある）。

「必要なのは、観察された事実が、再現可能であったり反証可能であったりすることである。だから、社会学において、「参与者の理解」は、完全に立派な分析手法である。その目的は、人間の集団でのものごとの暗黙的な起こり方――つまり、その集団の人間の生活形式――の理解である。これは、「主観的」な方法論であり、自然科学者の方法論としては不可能なものである。なぜなら、同じやり方で原子や細胞について考察することはできないからである。しかし、もちろん、物理学においても、すべての観察は、最初の瞬間においては、主観的なものである――つまり、誰かが、その人の脳と身体を使って計測器の目盛りを読まないといけないのである。物理学の実験では、読まれるべきデータは、まずは、金属やプラスティックに刻まれるのであるが、社会科学の場合では、読まれるべきデータは、社会的存在の集団的脳や集団的身体に刻まれているのであり、それに対しては、特別な「目盛りの読み方」が必要となるのである。このような二重に主観的な方法論の結果、社会に関する一般論が得られるのであり、その結果が十分に一般的かつ明晰な形式で記述されていれば、同じ方法論で別の人間によって検証することができる。そして、他の人が同じ結果を得られなかったとしたら、何かが間違っていたのである。つまり、ここで実践されていることは、たとえ、最初の観察が主観的なものに依拠していても、科学なのである。繰り返すが、自然科学と社会科学とは、方法論において根本的に違っているが、それでも、原則として、科学としての価値や信頼性において差があるわけではない。ここで言うことがすべての社会科学に当てはまるとは言わない。というのも、社会科学者を自称する人、特に社会学者の中には、自身の研究や学識を科学ではなく人文学に属するものとして扱う者も多く、そうなると価値が異なる場合もあるからである。つまり、ここで言うことは、自覚的に自らを科学者であると公言する意思のある社会科学者に当てはまる原理なのである。」（鈴木俊洋訳, 2022, 『民主主義が科学を必要とする理由』法政大学出版局, 105-6頁）

2026(令和 8) 年度　愛知大学大学院入学試験

(2026. 2 月実施)

受験番号	

修士課程

文学研究科　地域社会システム専攻	
外国語	
科目名	日本語

採点欄	

(辞書の使用可、電子辞書使用不可)

〔1〕次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

世の中には、ファッションに気を遣う人が多いようである。いろいろなものを身につけることは、楽しみでもある。身に付けるものについては、衣服であったり、アクセサリーであったりする。私はファッションなどまったく興味がないものであるが、私の妻は着ているものは〖　①　〗になるようである。服を買ってきたから似合うかとか、出かける時に着ていく服がどんな感じなのかとか、時々、感想を求められる。しかし、私はどうしても〖　①　〗のきいた返事ができない(つまり、センスのない返事しかできない)。そして、(大抵そうなってしまうのであるが)そんな時には、妻は①「聞く人が悪かった」と怒って向こうに行ってしまう。聞く人が悪いことは、前からわかっていて、ことさら言うことではないはずなのだが、私はどうもうまくできない。

実は、日本語には、着用の表現が豊富にある。身につけるもの、身につける場所や身につけ方によっても動詞が変わってくるので、ファッションには興味がない私にも実に興味深く感じられる。(1)に、いくつかの動詞の例を挙げてみる。

(1)かぶる、はく、着る、羽織る

(1)に現れている動詞は、すべて衣服などを身につける際に用いられるが、それぞれの動詞がとることができる目的語が異なる。「かぶる」には、頭部あるいは顔面を覆うという意味がある。通常は、「帽子」「仮面」などに対して「かぶる」という動詞を使用する。(「かぶる」には、「猫をかぶる」という表現もあるが、これは慣用句で、本当に猫をかぶっているわけではない)。強盗団が銀行に侵入するときには、「マスク(より正確にはフェイスマスクあるいは目出し帽)をかぶって」頭や顔面の部分が覆われて外からは誰かわからないようにする。単に「マスク」をつけるだと、頭や顔面を覆わなくてもよく、風などをうつさないように、口と鼻の一部を覆っているだけでよい。そんなマスクをつけて、強盗団が侵入してきたらどうであろうか。そんな格好の強盗は、こわくないかもしれないし、すぐに誰であるかわかってしまう。また、強盗団がその場から逃げ出したとしても、すぐに捕まえられてしまうのではないだろうか。(テレビの刑事ドラマを見ていると、犯人が判明することを「面が割れる」と言う②ようであるが、普通、犯人は、能面のお面ではなく、目出し帽のようなマスクをしている。そんな時に犯人が誰なのかが割り出されても「マスクが敗れる(割れる？)」とは言わない。)

「はく」の場合には、衣服に足を通して身につける必要がある。そのため、「靴下」「靴」「ズボン」などを身につける際には、「はく」という表現を用いる。次に、「着る」はおそらく(1)の中では最も意味が広く、［　ア　］、あるいは体全体に衣類を身につけることになる。したがって、「セーター」や「和服」を着るということはできる。しかし［　イ　］だけがカバーされる場合は、「着る」を使用することができず、「＊ズボンを着る」と表現することはできない。「羽織る」の場

2026(令和 8) 年度　愛知大学大学院入学試験

（2026．2月実施）

受験番号	

修士課程

文学研究科　地域社会ｼｽﾃﾑ専攻	
外国語	
科目名	日本語

採点欄	

（辞書の使用可、電子辞書使用不可）

合には、そでを通さなかったり、ボタンをかけなかったりして、身につけるという、少しラフな（あるいは本来的ではない）衣服の着用をする。したがって、「カーディガンを羽織る」の場合は、通常、袖に手を入れずに、［ ウ ］ような形で身につけることになる。それ以外にも「帯びる」のように［ エ ］という意味を表す動詞もある。江戸時代に「帯刀が許される」ということがあった。これは、「刀を帯びる」ということから来ており、刀を脇にさす、腰元につけるという意味を表す。

着衣の表現は、③本来的な意味から少しずれて使われることがある。成人式などで「着物の着付けをする」という表現を聞いたり、「着物の着付け教室」という講座があるという話を聞いたりする。「着物（着物）」は、本来は「着る物」という意味を表すはずである。しかし今日では、「着物」は「和服」を表すように意味の範囲が狭くなっている。「着物」は本来の意味にとると、「着付け」は「体裁よく着る物を着せる」ことであるため、成人式の時に「着物の着付け」をするという宣伝を見たら、当日、赤ちゃん用のパジャマ、戦国時代の鎧甲冑、パンダの着ぐるみや、テレビのロケで使った怪獣の着ぐるみ衣装などを持っていっても体裁よく着せてもらえるはずである。

（岸本秀樹『日本語のふしぎ発見！』教養検定会議）

問1［ ① ］に共通して入る漢字一字を記せ。　　答え（　　）

問2　下線部①「聞く人が悪かった」とは誰のどのような気持ちですか。本文に即して説明しなさい。

問3　傍線部②ようである」を「らしい」に言い換えると、どのような意味に変わるのか、説明しなさい。

2026(令和 8) 年度　愛知大学大学院入学試験

（2026．2 月実施）

受験番号	

修士課程

文学研究科　地域社会ｼｽﾃﾑ専攻	
外国語	
科目名	日本語

採点欄	

（辞書の使用可、電子辞書使用不可）

問4　空欄［　ア　］から［　エ　］に入るものとして、最も適当なものを、つぎのなかからそれぞれ一つずつ選び、その記号を記せ。

1　腰につける　2　足に巻く　3　肩にかける　4　体全体　5　上半身　6　下半身

答え　ア(　　)　イ(　　)　ウ(　　)　エ(　　)

問5　下線部③「本来的な意味から少しずれて使われる」とあるが、これは、具体的にどのようにずれているのか。本文の言葉を用いて説明しなさい。

問6　本文の記述から、「マスクをかぶる」と「マスクをつける」の違いはどのようなものであるか、説明しなさい。

問7　本文の記述から、日本語の「はく」と「着る」の違いを、具体例を示しながら説明しなさい。（200字程度）　解答は別紙

2026(令和 8) 年度　愛知大学大学院入学試験

（2026. 2 月実施）

受験番号	

修士課程

文学研究科　地域社会ｼｽﾃﾑ専攻	
外国語	
科目名	日本語

（辞書の使用可、電子辞書使用不可）

採点欄	

〔2〕 次の各文の敬語の使用法の誤りを正しく書き直しなさい

1　先生が申されたことにご賛成していただけませんか。

2　先生が拝見なさっているその本、貸してくれませんか。

3　お客様、どうぞお茶をいただいてください。

4　先生は明日の学会には参られますか？

5　視聴者のみなさんからたくさんのメールが参りました。

---

〔3〕 次の各要素の語順を並び替え、意味の通る文を作成しなさい。

1　学会の仕事を・結果なのか・してきた・長い間・依頼されるようになった。・ことばの研究を

---

2 行なわれる。・大会は・ほとんど週末に・関係する・学会の・私の

2026(令和 8) 年度　愛知大学大学院入学試験

（2026. 2 月実施）

受験番号	

修士課程

文学研究科　地域社会ｼｽﾃﾑ専攻	
外国語	
科目名	日本語

（辞書の使用可、電子辞書使用不可）

採点欄	

3 聴衆の少ない・それとなく、・わかってしまう・審査員がいることは・発表会場へ行くと・気がする。

---

4 評価をする。・ことが多いので・審査にあたっては、・それに従って・前もって示されている・評価のポイントが

問7

入学年度および実施時期	2026年度　第2期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	地域社会システム専攻
入試方式	留学生入試
科目名	日本語
試験実施日	2026年2月13日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）

【出題意図】
大学院で研究するに際して必要な日本語の文章を読解する力、文章にまとめる力など日本語の運用力を持っているか、また構文力や円滑なコミュニケーションのための敬語についての知識があるかについて出題した。

【解答例（採点時の観点）】
〔1〕
問1　気
問2　（例）　妻は筆者がファッションには関心がないのをこれまでに知ってはいるのだが、そのことをわかっていながら身近にいる筆者につい聞いてしまったという、がっかりしたような気持ち。
問3（例）　「ようである」と「らしい」はいずれも推量を表すが、「ようだ」は情報源が「話し手が見たこと・体験したこと」であるが、「らしい」は「他人から聞いたこと・本などで間接的に得た情報」である等の違いがあり、この場合も「らしい」にすると「他人から聞いたこと」の意味に解釈される。
問4　ア　5　　イ　6　ウ　3　　エ　1
問5（例）　「着物」は本来「着る物」を表す意味であるはずであるが、今日では「和服」のみを表すような使用法が多く、意味が限定的になっていること。
問6　（略）　「つける」と「かぶる」では同じマスクではないことに言及する必要があります。
問7　（略）「はく」が下半身に身につける用法を持ち、下半身だけがカバーされる場合は「着る」が使用できないことなどを、具体例を示しながら述べる必要があります。

〔2〕
着眼点　円滑なコミュニケーションのためには敬語が正確に使用できることが大切なものである。。
敬語の知識を身につけるとともに、尊敬語を使って表現する場合、謙譲語を使って表現する場合が、混乱しないよう注意してください。

〔3〕語順は主語と述語の関係や、修飾・被修飾の関係など構文が理解できているかという点に関わる問題です。
1　長い間言葉の研究をしてきた結果なのか学会の仕事を依頼されるようになった。
2　私の関係する学会の大会は、ほとんど週末に行われる。
3　聴衆の少ない発表会場へ行くと、審査員がいることはそれとなくわかってしまう気がする。
4　審査にあたっては評価のポイントが前もって示されていることが多いので、それに従って評価をする。

2026(令和 8) 年度　愛知大学大学院入学試験

（2026．2 月実施）

受験番号	

修士課程

文学研究科　地域社会ｼｽﾃﾑ専攻	
専門科目	
科目名	選択（その 1）

採点欄	

1. 以下の用語から 3 つを選択し、その意味を簡潔に説明しなさい。
リスク社会、ポスト工業社会、ホーソン実験、家族の双系化、ラベリング理論、地位達成モデル、階層化、ペアレントクラシー、グラウンデッド・セオリー

2. 社会学におけるコーホート分析の意義と方法論上の特徴を 200 字程度で論じなさい。

3. ケア労働の市場化（保育・介護民営化）が日本のジェンダー不平等に及ぼす影響について、400 字以上で論じなさい。

（下記に問題番号を示した上で回答しなさい。回答欄が不足する場合は裏面を使用すること。）

入学年度および実施時期	2026年度　第2期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	地域社会システム専攻
入試方式	一般入試・留学生入試
科目名	専門（その1）
試験実施日	2026年2月13日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）

【出題意図】

大問3問を出題した。1. は社会学を中心とした関連諸分野（理論・社会調査・教育・家族等）についての基礎知識があるかを確認するために、計9つの用語から3つを選択し、その簡潔な説明を求めた。2. は論述問題であり、社会調査の方法についての基礎知識があるかを確認するために、論述することを求めた。3. はケア労働の市場化とジェンダー不平等について、基礎的な知識があるかを確認するとともに、自らの考えを論理的にまとめることができるかを確認するために、論述することを求めた。

【解答例（採点時の観点）】

1. は、社会学を中心とした関連諸分野についての計9つの用語から3つを選択し、その内容を説明するものである。語句説明の仕方は複数ありうるとともに、用語すべてについて回答例を示すと膨大な分量となるため、以下に、採点の基準のみを示す。

・用語の正確性：説明が社会学の標準的な理解と一致し、核心的な特徴を捉えているか。
・説明の簡潔性と明瞭性：冗長さを避け、1〜2文で本質を的確に表現しているか。
・社会学的文脈の適切性：社会学の理論・研究領域と関連づけられているか。

2. は社会学におけるコーホート分析の意義と方法論上の特徴を正確かつ体系的に理解しているかを測るための、論述問題である。論述の仕方は複数ありうるため、ここでは回答例を提示せず、採点時の観点のみを解説する。

採点時の観点：

・概念説明の正確性：「コーホート（同時期出生集団）」が明確に記述できるか
・方法論的特徴の理解：「縦断的分析」「世代間比較」等の特質が説明できるか
・論理構成：設問に即し簡潔に一貫して論じられているか

3. は、ケア労働の市場化が日本のジェンダー不平等に与える影響を、理論的枠組みと具体的状況を結び付けて論じる力を測る論述問題である。論述の仕方は複数ありうるため、ここでは回答例を提示せず、採点時の観点のみを解説する。

採点時の観点：

・概念説明の正確性：「ケア労働」「市場化」が明確に定義できるか
・理論の理解：「ジェンダー分業」「再生産労働」等の関連が示されているか
・論理構成：賛否や両義性をふまえ、一貫して論じられているか

2026(令和 8) 年度　愛知大学大学院入学試験

（2026．2 月実施）

受験番号	

修士課程

文学研究科　地域社会ｼｽﾃﾑ専攻	
専門科目	
科目名	選択（その 2）

採点欄	

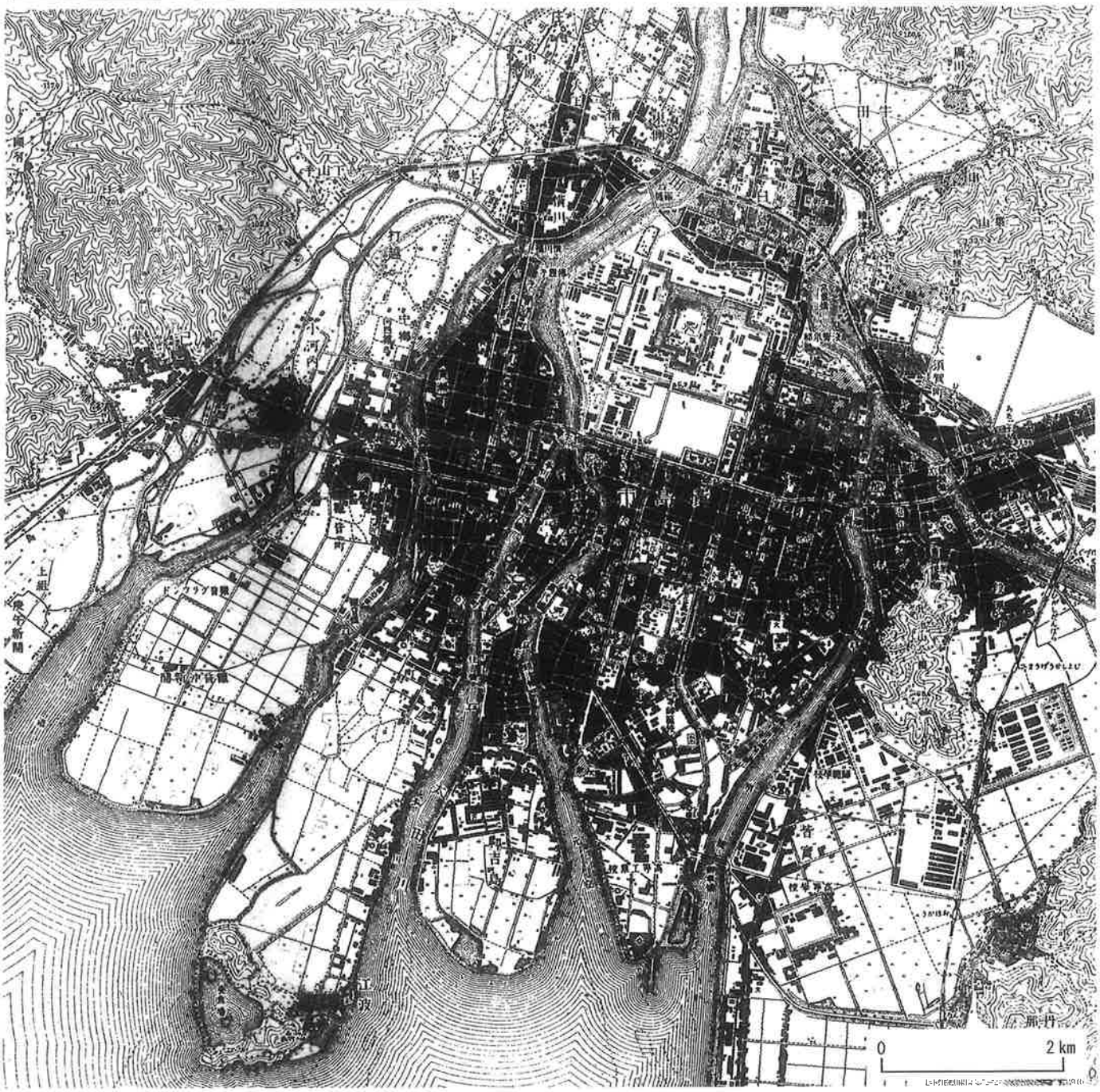


図　1932 年修正 5 万分の 1 地形図「広島」（部分）

上の地形図をもとに、次の 2 つの設問に答えよ。なお、解答にあたっては地形図中に記号等を記入して説明の援用にしてもよい。

(1) 1945 年 8 月 6 日の空襲によって、この都市はどのような被害を受けたか、地形図中の地名や位置を示しながら説明せよ。

(2) この都市の、1945 年から現在までの市街地の変化について、戦災復興計画や都市機能の変化を踏まえて説明せよ。なお、解答にあたっては地形図中の地名や位置を示しながら説明すること。

入学年度および実施時期	2026年度　第2期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	地域社会システム専攻
入試方式	一般入試・留学生入試
科目名	専門（その2）
試験実施日	2026年2月13日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）

【出題意図】

第二次世界大戦前の広島の地形図をもとに、1945年8月6日の原爆投下と被害について、地図をもとに状況を説明させるとともに、その後の戦災復興を経て広島がどのように「平和都市」として景観形成がなされたのかを問う問題である。日本の大学院で地域社会システムについて探究する以上、戦争被爆の実態を理解し、それを実際の地図上で説明することは必須の基礎教養といえる。また、軍事都市から平和都市への広島の転換を戦災復興計画とともに説明することも、地域社会を専門に扱う人材として確実に求められる力量であることから出題した。

【解答例（採点時の観点）】

解答にあたっては、問題にあった地形図に直接書き込むことを認めている。採点時は次の観点から、解答文ならびに地形図中の書き込みを総合的に判定し評価する。（1）原爆投下の爆心地（米軍の投下目標）が太田川三角州の河川分岐点という上空から判別が容易な地点であったことを示しているか。（2）原爆投下の目標地点が、軍事中枢であった広島城跡ではなく、市街地の中心であったこと、それが市街地や市民への被害を最大にしたことに触れているか。（3）現在の平和公園や原爆ドームがある一帯が、元来は広島の市役所や県庁が位置する都心部であったことを理解しているか。（4）旧都心部を「原爆への祈りの空間（平和祈念公園）」として再生し、それを中核として市街地の復興がなされていったこと、広島城跡を中心とする旧軍用地に市民球場や県庁を新設するなど、戦後は平和都市として戦前の軍事色を払しょくする形で都市開発がなされたことを説明しているか。

2026(令和 8) 年度　愛知大学大学院入学試験

（2026．2 月実施）

受験番号	

修士課程

文学研究科　地域社会ｼｽﾃﾑ専攻	
専門科目	
科目名	選択（その 3）

採点欄	

以下の論点のうち三つ以上に言及し、現代における地域の課題について具体例を挙げて論じなさい。

・第５波フェミニズムとバックラッシュ
・少子高齢化と限界集落
・格差の拡大と社会の分断
・グローバルエリートとローカル
・ジェントリフィケーション
・地消地産と分散型エネルギー
・地方創生と内発的発展
・国際労働力移動、ケアのグローバル化と移民の排斥

入学年度および実施時期	2026年度　第2期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	地域社会システム専攻
入試方式	一般入試・留学生入試
科目名	専門（その3）
試験実施日	2026年2月13日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）

【出題意図】

社会学より広い分野についての出題ゆえ、現代社会における課題について広く問うた。

現在の社会において重要な諸論点に言及しつつ、具体例を挙げて、現代における地域の課題について問うものとした。地域、都市、ジェンダー、労働、経済その他が関わる総合的な観点も問うた。

具体例を分析することで、地域システム専攻にふさわしい社会構造やシステムを問う出題とした。どれも現代社会を考えるうえで欠かせないテーマであり、理解や解釈の観点を持っていることが望ましいと考えた。

【解答例（採点時の観点）】

模範解答例があるというよりも、受験者の、このテーマへの向き合い方や観点を問うもののため、採点時の観点のみを解説する。

諸論点については、まず、日本社会における「地方創生」プランに対する「内発的発展」という重要なテーマについての認識と理解を問うた。それに連なるテーマが「地消地産と分散型エネルギー」である。

さらには「少子高齢化と限界集落」も地域の過疎化の重要課題である。一方、都市においては「ジェントリフィケーション」が地域の空洞化や開発と関わるテーマである。

地域の空洞化については、「国際労働力移動」を引き起こす、グローバリゼーションとネオリベラリズムが関与しており、また「ジェントリフィケーション」とも関与するが「グローバルエリートとローカル」という構造的問題がある。

そしてこれらの摩擦としての社会病理や社会問題として「移民の排斥」「格差の拡大と社会の分断」が起こっている。ジェンダー観点も重要であり、「第5波フェミニズムとバックラッシュ」「ケアのグローバル化」を問うた。

諸論点は連動して展開しているものでもある。現代社会の構造を捉えているかを評価しようとした。